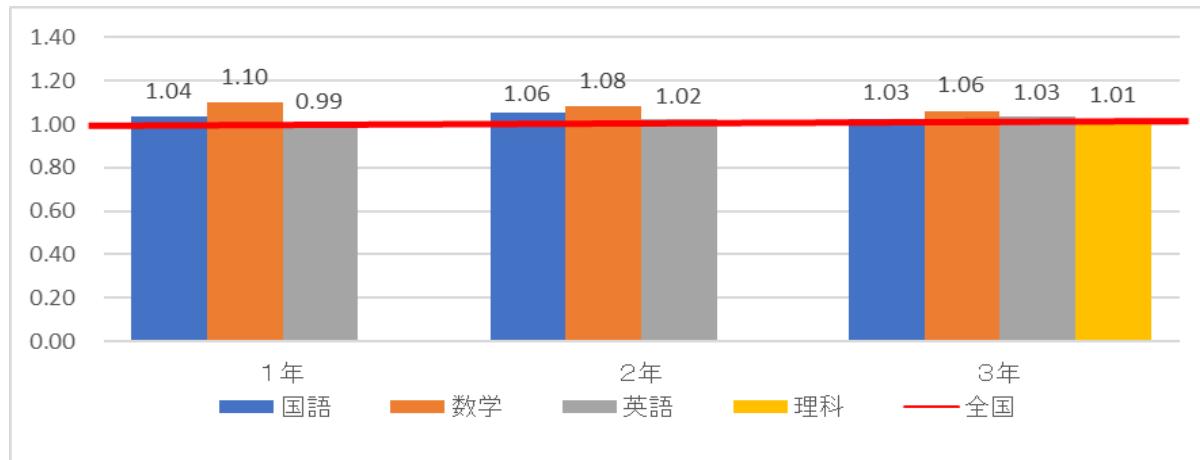


令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 友呂岐中学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※中学1・2年生（国・数・英）及び中学3年生（英）は、寝屋川市学習到達度調査
中学3年生（国・数・理）は、全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習 到達度調査	国語	全体的に全国平均を上回っている。ディベートを活用して、「話すこと・聞くこと」以外にも文章を書く力を身に付けさせていく。
	数学	基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、問題を解ける力を身につけさせていく。また、応用問題などの取組にも力をいれることで数学的な思考を培っていく。
	英語	1年生は若干全国平均を下回ったが、2年生は上回ることができた。引き続き、コミュニケーションのみではなく、「読むこと」「書くこと」にも指導を充実させていく。
全国学力・ 学習状況調査	国語	思考力・判断力・表現力の設問において、全国平均を上回っている。ディベートと国語授業の両輪で表現力の充実を図っていく。
	数学	図形の設問において、全国平均を上回っているが正答率は低い。図形の活用能力を育む指導に力を入れる。
	理科	全国平均を上回っているが、学習した知識等を活用できるようになるような指導方法の工夫が必要である。
	質問紙	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方気づいたりすることができますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均を上回っている。今後も、ディベート教育を通じて、より活動を深めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

校区小中一貫教育推進部会において、それぞれの部会で成果と課題を明確化して、共通した目標のもと、考える力の育成を軸として一層の授業改善を図る。また校区で協働して、小学校低学年期から、ディベート教育の充実に向けて取り組んでいく。

【学校】

問題解決や探求のプロセスで身に付けた知識を活用できるような指導方法の工夫が必要である。また、既習内容を活用して伝えたいことの根拠を明確にするなど、文章表現を常に意識することを指導していく。